

教科	公民	科目名	公共	単位数	2	
学科	全学科	学年	2 学年		履修区分	必修
使用教科書	改訂版 新公共 第一学習社					
副教材など	ニュービジョン公共(浜島書店編集部) 完成ワーク社会(増進堂)					

1. 科目の目的

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 授業の内容と進め方

・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3. 学習する上での留意点

科目の目的を達成するために、常に世の中の動きに関心を持つことが大切である。自分だったらこの出来事に対してこう考える、という自分の意見をはっきり言えるようにすること。そのためにはいろいろな人と世の中の情勢について話し合い、コミュニケーション能力を身に付けることを意識すること。

4. 課題等について

- 1) 就職試験の過去問に挑戦し、分からなかった点について、調べ学習を行う。
- 2) 各単元において時折、内容理解度のチェックを行う。
- 3) 課題追究学習については、レポートや報告書の作成を行う。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に考察し解決しようとしている。

6. 評価の方法

評価については定期考査の成績や課題の提出状況などを平常点として加えて、総合的に判断する。

- 1) 定期考査の結果をもとに、学習の内容の理解度や定着度を判断する。
- 2) 授業への取り組み(学習活動への意欲・出席状況)など学習への態度、意欲を評価する。
- 3) 授業時のノート、課題を提出させて整理の状況の評価する。

《指導計画》 科目名 公共

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間を作る私たち ①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自立 ③多様性と共通性 ④伝統文化との関わり	■社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	発表評価 小テスト 課題提出	
	5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ①人間と社会のあり方についての味方・考え方	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	行動観察 課題提出	
	6	第3章 公共的な空間における基本的原理 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配 ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法に生きる基本的原理	■古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する	期末考査 行動観察 課題提出	
	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任	■法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。		
	9	主題3 司法参加の意義	■紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。	中間考査 行動観察 課題提出	
	二 学 期	10	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割		■民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ■主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ■日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ■国際平和を実現するために必要な日本の役割を理解する。
		11	第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界		■少子高齢化による労働力不足が問題となるなか、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 ■グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。
12		主題11 金融のはたらき	■公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ■経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのか理解する。 ■少子高齢化が進むなかで、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。		
1		主題12 財政の役割と社会保障 主題13 経済のグローバル化	■経済がグローバル化するなかで、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。		
三 学 期	2	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 課題探究活動	■持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。	期末考査 行動観察 課題提出	
	3				